

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年7月4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101474		
法人名	株式会社 ハートピア		
事業所名	ケアホーム日なた家	ユニット名	うめユニット
所在地	〒310-0841 茨城県水戸市酒門町1739		
自己評価作成日	平成23年11月24日	評価結果 市町村受理日	平成24年6月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0870101474&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年1月18日	評価確定日	平成24年6月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「明るく元気いっぱいスマイル日なた家」をモットーに、入居者も職員も元気でいられる雰囲気作りに努めています。</p> <p>施設内に一步入れば、中庭のある開放的な空間と日差しが入り込んだ明るい窓辺があり、入居者と職員が共に笑い合い心も体も健康的な気持ちになることができます。</p> <p>日頃のケアについては、入居者に対して人生の先輩である事を忘れないような言葉づかいをするように意識しています。</p> <p>また、ご家族に対しても何度も面会に来ていただけるような気持ちで接しています。</p> <p>見学にいらっしゃる方のほとんどが「認知症の方が入っているように感じないですね」と話して下さることが職員の励みとなっています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は平屋建てで広大な敷地の中に建てられており、利用者がゆとりのあるスペースを共用し、各ユニット間や庭を自由に行き来しながら日常的な趣味活動や作業ができるように配慮されている。</p> <p>近隣には公園や図書館、中学校、大型店舗があり便利な場所に立地している。</p> <p>法人においては、グループ全体の広報紙の作成に取り組んだり、地域参加型の夏祭りを開催するなど、地域や家族等の関係者にサービス内容を理解してもらえるように努めている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に開かれたものにする」とともに、利用者が地域社会の一員として生活することを支えます」という内容を倫理綱領に掲げ、職員は常に明るく優しい支援に努めている。	「住み慣れたまちで普通の生活を続けることができる」などのキーワードを含む事業所独自の理念を掲げている。 職員は名札の裏に理念を携行し、常に確認できるようにしている。 年1回研修で理念を再確認する機会を設け、具体的なケアにより実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、避難訓練など施設内行事開催時には地域住民へお知らせしている。また、利用者は近隣の公園などへ散歩した際、色々な人と交流している。	町内会に加入し、利用者は職員と一緒に廃品回収に参加して地域の人々と定期的に交流をしている。 町内の婦人会に民謡を披露してしてもらっているほか、小学生のボランティア委員会や中学生の職場体験学習を受け入れている。 利用者は中学校が開催する音楽会に招待され観覧している。 必要に応じて事業所の駐車場を地域住民に開放し、活用してもらっている。 利用者毎に個別の外出支援をしており、美容院や喫茶店、買い物に出かけた際に近隣住民と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子ども会の廃品回収に出したり、小学生のボランティア活動や中学生の職場体験学習を受け入れ地域との交流を通して認知症の理解に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回家族等の代表や地域の代表、有識者、市職員、施設職員が参加し開催している。外部の意見を参考にしながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議は市職員と地域住民の参加を得て2ヶ月に1回開催している。 会議では外部評価の結果を報告するとともに、明らかになった課題について意見交換をしてサービスの改善に取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課や高齢福祉課、生活福祉課へ訪問や電話の手段を用いて連携を図っている。	管理者や職員は市の研修に参加し情報交換をするとともに、市担当者からは新規利用者の受け入れについて相談を受けている。 外部評価結果の報告書や広報紙を市担当者に届けながら互いに協力体制を築き、利用者の生活を市と協働して支え合えるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議、全体会議などで話し合い身体拘束をしないケアの実践をしている。身体拘束防止に関するマニュアルを設け施設内研修も行っている。	事業所独自に作成した「身体拘束ゼロへの取組み」を掲示するとともに、定期的に内部研修を実施して職員の共有認識を図っている。 安全確保のために玄関を施錠していることを重要事項説明書に明記するとともに、家族会で報告して周知を図っている。 玄関以外の扉は自由に開放できるようにしてあり、他の身体拘束についても行わないよう支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で虐待について学習し、ユニット内でも虐待に繋がるかどうか話し合いをし、虐待しないケアの実践をしている。虐待防止に関するマニュアルを設け施設内研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット会議、全体会議などで話し合い権利擁護に関する知識を学んでいる。利用者に権利擁護事業や成年後見制度を利用している方がいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設長または管理者が時間をかけて説明し、契約書類を家族に見てもらおう。不明な部分は十分に説明する。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に家族等からの意見や苦情等の相談受付窓口を明記している。また、面会時などにも積極的に家族からの意見に耳を傾ける姿勢をとっている。	家族等には入居時や家族会開催時、来訪時に気軽に意見や要望を出してもらえよう働きかけている。 介護相談員を受け入れ、利用者から出たそれぞれの思いを職員会議で話し合い、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議やユニット会議で職員と意見交換している。	管理者は職員がいつでも気軽に意見や提案ができるような雰囲気づくりに努めるとともに、事務所内に職員用の意見箱を設置し、気軽に意見等を出せるよう工夫をしている。 職員から出た意見等は全体会議や管理者会議で運営に反映できるように話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を設け、職員一人ひとりが業務の振り返りが出来るようにしている。その際管理者が面談を行い、やりがいや向上心等について話し合う機会を設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の段階に応じて研修の機会を提供している。研修受講報告書を作成し職員で回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内のグループホーム2施設と職員2人ずつ交流研修と称してケアの研修をしている。また地域密着型サービス協議会の会員にもなり定期的な交流をもっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では、不安なことが多いと思うので、職員は小まめに声掛けし、利用者の話を引き出すよう心がけている。また、傾聴の姿勢で日々関わり、利用者本人の声を踏まえたサービスを行い、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会の時利用者の日常生活や体調などを伝えたり利用者の趣味や興味があることを聞いたりすることで関係をつくっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの時間づくり、本人や家族等が求めている事柄に対し施設が応えることができるか十分に見極める。状況によっては他のサービス事業者に情報提供することもある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者が話す昔の暮らし方を興味深く聞いたり、時にカーテンを閉めることや、食器拭きをお願いしたり、利用者と支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族等の訪問を受け、ご家族の健康状況にも気遣う会話を職員全員が心掛けている。利用者様の話に留まらず、ご家族自身の話にも寄り添い、利用者と家族を時には仲介し、つなげる役割をしている。そして、関係の改善、向上に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者と全職員が馴染みの関係を築けるようホーム行事等で交流したり日ごろから顔を合わせる機会を多くしている。	入居時に家族等から話を聴き、利用者のこれまでの生活を把握するように努めている。 職員は利用者の希望を家族等に連絡し、利用者の友人宅や馴染みの美容院、コーヒーショップに行けるように支援をしている。 墓参りなどの急な要望でも、可能な限り職員と共に出かけられるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を孤立させない為にも職員が利用者と共に支えあう関係を作るよう努めている。また、ユニット内で利用者同士の性格を踏まえた席順を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了となっても今までの生活の様子などをいつまでも話せるように個人記録を残しておく。また、終了後の連絡にも快く応じ家族等が話しやすいようにしておく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いや把握が難しい時は利用者の表情や行動を観察しながら今何を望んでいるのか職員で話し合い検討しながら支援している。	入居時のアセスメントにおいて、どのように暮らしたいか、誰に会いたいか、どこに行きたいかなどの利用者の希望や意向を家族等から聴いている。 利用者の言葉にならない思いなどは、日々の支援の中で表情や態度から気付いたことを記録し、全職員で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は利用者のこれまでの暮らしを必要であれば家族やご本人から話しを聞き、把握する。情報を基に職員で話し合い検討しながら支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者の日々の生活の中で、状態の変化を捉え、季節に合わせた一人一人の過ごし方や心身状態を把握しながら支援している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度介護計画の見直しをしている。日々の変化を職員との密な情報交換で得て、見直しの際にはユニット内での話し合いにより向上するよう努めている。	介護計画は利用者や家族等から聞いた思いや要望を基に介護計画案を計画作成担当者が作成し、ユニット職員が参加するカンファレンスで医療関係者の意見を踏まえて話し合いながら作成している。 6ヶ月毎に評価を行い介護計画を見直すとともに、利用者の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議時に個人記録を元にケアの支援について話し合いそれぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。会議以外でもその都度、変化に応じてケアの方針を考え、ユニットの連絡帳へ記載し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の受診時は基本的には家族の付き添いとなるが、どうしても家族が都合の付かない場合は職員が通院介助している。利用者の要望に耳を傾けながら個別に支援を行っている。「食事を部屋で食べたい」「お粥が食べたい」「朝食で梅干を食べたい」等の要望に個別に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園や図書館、公民館の場所を把握し利用者も活用できるよう支援している。出張美容もあるが近所の美容院に行くこともできる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に今後の主治医について話し合い近隣以外のかかりつけ医を希望する時は家族等の協力を得ながら受診するとともに受診結果を職員で共有している。	入居後も元々のかかりつけ医を変更することなく、必要に応じて受診ができるよう支援をしている。 家族等の付き添いが困難な場合は、職員が通院支援をしている。 家族等の付き添いで受診する場合は、医師に利用者の日頃の様子を適切に情報提供できるよう、手紙や電話で報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の急変や体調変化など訪問看護に伝えアドバイスや看護を受けられる体制になっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院が決まった時にはかかりつけの医師と相談したり入院先の医療関係スタッフに連絡したりしている。退院時も事前に連絡を取り合いスムーズに退院できるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期介護に関する指針を作成し利用契約時に利用者や家族等に説明するとともに同意を得ている。重度化した場合は主治医や家族、職員で今後の方針を話し合っている。	重度化した場合の事業所としての対応方針を契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 終末期ケアを開始する場合は家族等と面談し、事業所ができることとできないことや医療サービス等との連携を説明している。 利用者の状況変化に応じて段階的な合意に向けた取り組みをしている。 看取りのマニュアルを作成し、マニュアルにそった職員研修を定期的に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議で緊急時対応を学び実践している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。避難経路は明確で夜間を想定した訓練を実施している。地域住民に協力が得られるよう日頃からの付き合いを大切にしている。	災害対策マニュアルを作成し、消防署立会いのもと利用者と一緒に年2回避難訓練を実施しているが、夜間想定避難訓練を実施するまでには至っていない。 避難訓練の実施記録を作成しているが、前回の訓練で得られた課題についての具体的な対策を構じるまでには至っていない。 地域住民の協力については運営推進会議を通して呼びかけているが、協力体制を構築するまでには至っていない。 2日から3日分の食糧と飲料水を備蓄している。	実施が予定されている夜間想定避難訓練を確実に実施するとともに、訓練が前回の課題を踏まえたものになるよう実施前の事前準備が望まれる。 地域との協力体制についても、粘り強く参加を呼びかけるなどで支援が得られるよう取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者に自然な言葉かけで接するとともに、利用者への尊厳を大切にしている。利用者の個人の記録等はキャビネットに保管している。	職員は利用者が人生の先輩であることを認識し、敬う気持ちで対応するとともに、利用者の気持ちを尊重した声かけに努めている。 全職員は定期的にマナー研修と個人情報保護に関する研修を受講しており、利用者の個人情報に関する書類は鍵のかかるロッカーに保管し、責任ある取扱いと管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志を確認するために質問する接し方をしている。選択肢を設けて分かりやすく答えやすくすることもある。表現が難しい利用者に対しても表情や行動から察し、利用者の意向に沿えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者の話を聞き、一日を自由に過ごせるよう支援している。利用者の体調に合わせ無理のない支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に季節に合った服装を選び季節感を味わってもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食材を説明しながら配膳している。食事は必ず利用者と一緒にとりコミュニケーションをとる。後片付けも利用者と一緒に行う。	食事を楽しむことができるように、苦手な物がある時は代替食で対応している。利用者はできる範囲で食事の準備や後片付けなどの役割を担っている。職員は利用者と同じ食卓で同じ食事を摂り、会話をしながら楽しく食事できるように支援をしている。外食の日を設け、利用者同士の話し合いにより何を食べに行くかを決めるなど、食事が楽しみなものとなるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量や食事摂取量を記録する事で体調のすぐれない利用者は主治医から適切な水分量などの指示を受けて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとり声を掛け歯磨きやイソジン液を薄めたうがいをを行う事で清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンのチェック表を作成して介助を必要とする利用者の自立に向けた支援を行う。	全職員は排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握している。利用者一人ひとりの排泄のタイミングを計りながら、トイレでの自立した排泄ができるように声かけと支援に努めている。トイレは車いす対応で広く、可動式の手すりも設置されており、介助が必要な状態でも排泄の自立に向けた支援ができるように工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行い、必要に応じて主治医に下剤を処方してもらう。また、運動や食事量を一人ひとりの排便リズムに合わせて考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望により週2回、3回入浴できる体制をとると共に夕方入浴も支援している。入浴はコミュニケーションの大事な場になると考えている。	入浴は毎日午後から夕食準備前の時間帯を基本としているが、利用者の希望にそった入浴もできるように支援をしている。入浴に対して負担感や恐怖心、羞恥心を感じる利用者でも入浴を楽しむことができるよう、利用者一人ひとりに合わせた声かけを工夫したり、季節に合った入浴剤を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は利用者一人ひとりの生活習慣や状況に応じて休息したり安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが通院している医療機関の処方箋(薬の説明書き)を保管していつでも確認できるようにしたり、通院記録に記載したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者の生活歴を把握し、それをふまえた上で特技を行うような支援を心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望により散歩がてら買い物へ出かけたり公園内の図書館へ出かけたりにしている。	利用者一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて墓参りや美容院、喫茶店、友人宅への訪問、買い物など、希望にそった外出ができるよう個別に対応しており、家族等の協力も得ながら外出ができるように支援をしている。 ユニット毎に日常的に散歩に出かけたり、ドライブで気分転換を図っている。 事業所全体で季節毎の花見や海などに出かけ、積極的に外出ができるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者については所持を容認しているので買い物などは本人所持のお金を使っている。本人所持が難しい場合でも事務所預かりのお金があり、いつでも使えることを伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人から手紙くる、または、電話がかかってきた場合、やりとりができるよう支援している。利用者の中には携帯電話を所持している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は広く正面ホールも中庭が見渡せ開放感があり陽光はカーテンで調整している。各ユニットでは展示物などの工夫をしている。	事業所は完全バリアフリーとなっており、自由に行動しても安全なように配慮をしている。 加湿器を設置し湿度調整をしている。 木製のベンチやテーブル、ソファを設置しており、利用者が思い思いの場所で寛ぐことができるように工夫をしている。 壁面には利用者と職員で作成した季節の作品を飾るなど、ユニット毎の個性が感じられる飾り付けになっており、居心地のよい空間づくりをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットにテーブルや畳で過ごせる共有スペースがあり、利用者の気持ちで集まることができる。そこに集まるとお茶を提供することも多い。また、ひとりになりたいときにも自由がきくように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室畳敷きで利用者が思い思いの寝具を持ち込む。利用者は使い慣れたタンスや仏壇などを置き家庭に近い環境の中で落ちついた生活をしている。	全室畳敷きで壁と天井も和室仕様となっており、落ち着いた雰囲気になっている。利用者は使い慣れた家具や電化製品を持ち込んだり、家族等の協力を得ながら家族の写真や手紙、絵、カレンダーなどを飾り、居心地よく暮らせるような空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの習慣や好み、できる力を見極め「できること」をできるようにしている。例としてはエアコンのリモコン管理や居室の鍵の所持である。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 ケアホーム日なた家

作成日 平成24年6月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の避難訓練に夜間想定が確実に行われるようにする必要がある。	年に1度は夜間想定 の避難訓練を行う。	外部評価直後の避難訓練で夜間想定 の避難訓練を実施した。今後も継続する。	即改善を行った。
2	35	前回の避難訓練の反省点を踏まえて、次回避難訓練を行う必要がある。	反省点を生かした避難訓練を行うことにより 的確な避難が出来るようになる。	避難訓練企画概要の中に「前回の反省点」、 報告書の中に「次回につなげる反省点」という項目を設ける。	即改善を行った。
3	35	避難訓練において地域の協力体制が得られていない。粘り強く参加を促す必要がある。	避難訓練で地域住民の参加を得ること で、協力体制を確保する。	町内会長に参加の協力をお願いしたり、 町内回覧板に案内をはさめたりする。	即改善を行った。
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。